

# 石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ  
https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学  
広報係  
☎986-8580  
宮城県石巻市  
南境新水戸1番地  
☎0225-22-7717(直)

最新の情報は大学HPで。  
QRコード

## オープンキャンパス 体験型企画で魅力紹介

### 対面形式で実施 115人が来場



オープンキャンパスが催された。感染症対策の6月27日、対面形式で開観点から事前予約制で行われ、受験生や保護者など115人が来場した。

昨年3月以降、オンラインでの実施が続いていたが、今年3月には少人数ながらキャンパスに招待。今回は、学生スタッフなどの在生も参加し、約2年ぶりに、対面形式でほぼ従来通りのプログラムを行った。

当日は、学科の学びを体験できる「学科説明+模擬授業」、学生スタッフが学内施設を案内する「キャンパスツアー」、入学者選抜制度や学生生活について相談できる「個別相談」などを用意。「オープンラボ・ゼミナール紹介」では、2022年度に新コースがスタートする生物科学科の16種類をはじめ、7学科の約40種類に及ぶ専門的な研究を分かりやすく紹介した。

- オープンキャンパス  
—今後の日程—
- 7月25日(日)
  - 8月21日(土)
  - 9月 5日(日)
- ※詳細は大学HPなどでご確認ください。

訪れた高校生らは、体験型のイベントを通じて本学の魅力を体感し、石巻で過ごす大学生生活に期待を膨らませた。

人間文化学科の模擬授業  
「地域の可能性を考える」



### 好評！ 模擬授業・オープンラボ

学生が作製したメスジカの全身骨格標本を展示した辻研究室



情報マネジメント学科の学科説明



### 食環境学科・生物科学科



水位調整池で試料を採取する学生たち

## 学内の調整池で生態系を調査

理工学部食環境学科と生物科学科の3、4年次生が水質環境工学の授業で、学内の水位調整池の生態系調査を行った。6月19日の授業のテーマは「現実の生態ピラミッドに入って触れ調べる」。学生たちは池に入り、試料として水を採取し、魚やカニなど多様な生き物にも触れた。池の水は教室に持ち帰り、顕微鏡で観察。調整池に生息していた魚介類の消化管の内容とプランクトンを調べた。干潮域に存在する特殊な河川の汽水域生態系の生態ピラミッドと、調整池内で進んだ食物連鎖のつながりを確認。学内の池に豊かな生態系が広がっていることを体感した学生たちは、自然に囲まれた環境の中で学ぶ楽しさを実感した様子で、今後の調

査に対する期待感を口にした。今回調査した調整池は北上川と水路でつながっており、食環境学科の高崎みつる教授は「このような特殊な水域を学内に持つ大学は世界的にも珍しく、海水と淡水両方の性格を併せ持つ貴重な大学資源だ」と話した。高山遼輝さん(理工4・茨城県第一学院高高萩校)は「自然が教科書通りの姿でないことが分かり、より深く調べたいと感じる魅力的な授業だった」と話した。



顕微鏡で池の水を観察

## 人間教育学科1年次生 小学校で授業の進め方学ぶ

人間学部人間教育学科 学校3校を訪れ、国語や1年次生が6月21日と算数の授業を見学した。28日、石巻圏域にある小有見正敏特任教授が担当



教室の後方から授業を見学し、気づいた点をメモする学生たち=石巻市立住吉小学校

する「保育・教育研究」の一環で、学生たちは教師の目線に立ち、効果的な発問や板書の方法、授業時間の使い方などを学んだ。

参加した1年次生にとって、今回の授業は児童と接する初めての機会となった。実際の授業の雰囲気や児童たちの明るく元気が笑顔に触れ、それぞれが今後に向けての手応えをつかんだ。



現代社会における病者や障がい者の位置づけならびに取り扱われ方について、社会的排除論や社会的振分けの観点から研究しています。石巻専修大学では、地域社会論や家族社会学などの科目を担当しています。一口に社会学といってもその内容は多岐にわたりますが、共通するのは社会と個人の動態を把握し、それを批判的に捉えようとする視点です。そうした社会的視点の獲得を目指し、授業では現代社会のさまざまなイシュー(MeToo運動、

## 社会学視点で「当たり前」を疑う

人間学部人間文化学科 野島 那津子 准教授

NOJIMA NATSUKO

### 研究室探訪

Black Lives Matter、感動ボルノなど)を取り上げながら専門的な概念について学んでいます。ゼミでは歴史社会学の文献講読を通して、日本の雇用慣行、教育制度、社会保障制度などが、いつ、どのように形成されてきたのかを学び、その仕組みを批判的に検討しています。社会学は常識を疑う学問です。社会にあふれる「当たり前」のなかには、多くの人が滞りなく生活を送るうえで必要なものもある一方で、意味不明のものや少数の人々を生きづらくさせるものもあります。想像力を最大限に働かせ、一つ一つの「当たり前」を批判的に検討していくことで、学生の皆さんには「当たり前」を疑うことと「当たり前」ではない現実や考え方に思いを巡らすこと、すなわち物事を批判的かつ多面的に捉える力を身につけてほしいと思います。

## 大学開放講座

### 「地元」テーマに6教員が講演

6月から全6回にわたって行われた「みやぎ県民大学 石巻専修大学開放講座」が7月8日に終了した。梅山センター長(右)から修了証が手渡された。



梅山センター長(右)から修了証が手渡された

今年度は「地元はいきもの」(高崎みつる)、「宮城県や石巻地域に着目した内容で、毎回多く市民らが熱心に聴講した。5回以上受講した43人の知」を広く地域・社会に還元することを目的で、梅山センター長(理工学部教授)が今年度は感染症拡大防止ら、代表者に修了証が手渡された。

「地元」をテーマにした6人の教員が講演した。梅山センター長(右)から修了証が手渡された。

人数を「定員(200人)の40%以内」に定め、対面形式で行った。